様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　２ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：若手研究
研究期間：2022～2023
課題番号：２２Ｋ１２９５６

研究課題名（和文）色覚少数者の日常生活世界の構造の研究

研究課題名（英文）A Study on the Structure of the Daily Lives of People with Colorblindness

研究代表者
馬場　靖人（BABA, Yasuhito）

東北大学・情報科学研究科・JSPS特別研究員(PD)

研究者番号：００９２７５６９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、色覚少数者による自分自身の色彩経験についての語りを、現象学やポスト構造主義の知見に照らしながら解釈することによって、色覚少数者の日常生活世界の構造を解明することを目的とするものである。色覚少数者の当事者研究会の開催や文献解釈を通して、当事者間に共通する経験のパターンを抽出し、当事者の視点からその日常生活世界の構造の一部を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
人文学ではこれまで、色彩や色彩知覚へ関心が寄せられてきたが、少数派色覚の色彩経験に対する関心は周縁的なものにとどまっていた。本研究は、従来の色覚多数派中心主義的な色彩観を色覚少数者の視点から問い直し、哲学・思想や当事者研究の発展に大きく寄与した。また、本研究は、色覚少数者に対する偏見を改善し、社会福祉の向上にも貢献した。

研究成果の概要（英文）：This study aims to elucidate the structure of the daily lives of individuals with colorblindness by interpreting their narratives about their own color experiences through the lenses of phenomenology and post-structuralism. By organizing Tojisha-Kenkyu meetings and analyzing relevant literature, common experiential patterns among these individuals were identified. This approach has allowed us to reveal aspects of their daily life structure from the viewpoint of the individuals themselves.

研究分野：色盲論

キーワード：色盲　少数派色覚　色覚少数者　当事者研究　現象学　ポスト構造主義　言語

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

当事者研究は 2001 年に始まり、病気や障害の当事者が自分自身の困りごとへの対処法を仲間とともに考える実践として発展してきた。当初は統合失調症を中心に始まった当事者研究は、徐々に精神障害以外のさまざまな対象へと広がり、現象学やポスト構造主義との対話も進展しつつあった。しかし、色覚少数者のような外見上識別が難しいマイノリティを対象とした研究はほとんど行われておらず、色覚少数者の経験を記述し、理解するための新たな枠組みが必要とされていた。色覚少数者の視点からの具体的な経験を詳細に記述することによって、従来の研究では見過ごされていた多様な問題が明らかになることが期待できた。

２．研究の目的

本研究は、色覚少数者の日常生活世界の構造を解明することを目的とする。具体的には、まず当事者研究会の開催により、申請者自身を含む色覚少数者の経験についての語りの一次データを蓄積し、当事者間に共通するパターンを明らかにする（目的①）。次に、過去の色覚少数者が自分自身の日常的な経験について記述した複数のテクストを比較しながら読解し、それらのあいだに共通するパターンを明らかにする（目的②）。最後に、①と②により得られたパターンを、現象学やポスト構造主義の思想の知見に照らして解釈し、当事者に共通する経験の構造を解明することを目指す（目的③）。

３．研究の方法

まず定期的に当事者研究会を開催し、色覚少数者たちが日常生活での経験を語る場を提供する。ここで収集したデータを分析し、共通のパターンと個別の特性を明らかにする。次に、過去の色覚少数者の記述を比較・読解し、歴史的な文脈での経験の共通点を探る。最後に、これらのデータとテクストを現象学やポスト構造主義の知見に基づいて解釈し、色覚少数者の経験の構造を明らかにする。

４．研究成果

本研究により、色覚少数者の日常生活における経験の構造の一端を明らかにすることができた。少数派色覚は単なる差異に過ぎないにもかかわらず、しばしば知覚能力の欠損や障害と見なされている。この偏見は現在でも多くの人々が抱いているが、本研究により、これは十九世紀のヨーロッパの生理学が形成したものであること、またそうした生理学自体の形成に際して、特にドイツにおいてカントの哲学が大きな影響を与えており、それが少数派色覚を理解するための枠組みを与えていたことが明らかになった。

さらには、当事者研究会の実施を通じて、色覚少数者の問題が単に知覚能力（特定の色が見え

る／見えない、できる／できない）の問題ではなく、色覚少数者の色彩経験を語るための言語の欠如から生じるものであることを確認できた。色名をはじめとした言語は、そもそも色覚の多数派の身体に合わせてつくられているにもかかわらず、色覚少数者が自身の経験を他者に伝える際には、その多数派の言語を用いざるを得ない。そのため他者とのあいだの色をめぐる言語的コミュニケーションには必然的にずれが生じることになる。したがって、色覚少数者の「困りごと」とは、一般にそう考えられているように彼らの色覚の「欠損」や「異常」から因果的に派生するもの（つまり「（色覚）障害」）ではなく、自らの経験を語るための言語資源の欠如から出来するものであることを確認できた。これにより、色覚少数者の経験をより正確に理解し、社会全体がより包括的で理解のある環境を提供するための基盤を築くことが期待される。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 馬場 靖人
２．発表標題 色盲当事者＝科学者の色盲論
３．学会等名 日本医学哲学・倫理学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 馬場 靖人
２．発表標題 J・シュティリングのカント解釈――色盲理解の認識論的基盤としての超越論哲学
３．学会等名 早稲田 表象・メディア論学会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

当事者研究会「色の感じ方」研究会 https://daltonien.jimdofree.com/%E3%81%94%E6%A1%88%E5%86%85-%E6%B4%BB%E5%8B%95%E8%A8%98%E9%8C%B2/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関